

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 1 区分
【発行日】平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)

【公表番号】特表 2001-512369(P2001-512369A)
【公表日】平成 13 年 8 月 21 日 (2001.8.21)
【出願番号】特願 平 10-536927
【国際特許分類第 7 版】
 B 0 3 C 7/02
 B 0 3 C 7/08
【F I】
 B 0 3 C 7/02 C
 B 0 3 C 7/08

【手続補正書】
【提出日】平成 17 年 1 月 11 日 (2005.1.11)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成17年 1月11日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成10年 特許願 第536927号

2. 補正をする者

名 称 セパレーション・テクノロジーズ・エルエルシー

3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル206区
ユアサハラ法律特許事務所

電 話 3270-6641~6646

氏 名 (8970) 弁理士 社 本 一 夫

住 所 同所

担当者氏名 (7669) 弁理士 増 井 忠 式

4. 補正対象書類名

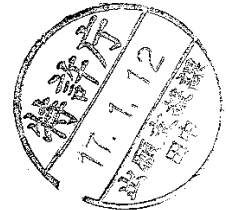
請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

別紙の通り



(別 紙)

請求の範囲を下記のように訂正する。

『 請求の範囲

1. フライアッシュを摩擦電気式分離装置に導入して、炭素粒子及びフライアッシュを摩擦電気によって帯電させ且つ帯電した炭素粒子を帯電したフライアッシュから静電分離することを含む、フライアッシュから炭素粒子を分離する方法であって、

摩擦電気式分離装置へのフライアッシュの導入に先立って、フライアッシュからの炭素粒子の静電分離のために、フライアッシュの相対湿度が、約5%乃至30%の理想的な相対湿度範囲となるように調整される、ことを特徴とする方法。

2.

請求項1に記載の方法であって、

フライアッシュの相対湿度が低下される、方法。

3.

請求項1に記載の方法であって、

フライアッシュの相対湿度が増大される、方法。

4.

請求項3に記載の方法であって、

遠方の貯蔵容器から摩擦電気式分離装置までフライアッシュを搬送するために使用される空気に水を添加することにより、フライアッシュの相対湿度を増大させる、方法。

5.

請求項4に記載の方法であって、

添加された水が液体状態である、方法。

6.

請求項4に記載の方法であって、

添加された水が蒸気の状態である、方法。

7.

請求項3に記載の方法であって、

摩擦電気式分離装置の供給口にてフライアッシュに水を添加することにより、
相対湿度が増大される、方法。

8.

請求項7に記載の方法であって、
摩擦電気式分離装置の供給口の流動化領域をフライアッシュが通る前に、フラ
イアッシュに水が添加される、方法。

9.

請求項2に記載の方法であって、
アッシュを分離装置に搬送する大気温度よりも高温のアッシュー空気搬送装置
内にて、フライアッシュを低い相対湿度の空気と組み合わせるステップと、
アッシュー空気搬送装置を大気温度以上に保つステップと、
アッシュー空気搬送装置が大気温度よりも高い温度である間に、空気をアッシ
ュから分離するステップと、
摩擦電気式分離装置内に供給するためにアッシュを集めるステップとによって、
供給フライアッシュの相対湿度を低下させる、方法。

10.

請求項9に記載の方法であって、
空気を加熱すること及び空気を除湿することのうちの一方によって、空気の相
対湿度を低下させ、低い相対湿度の空気を提供するようにした、方法。

11.

請求項2に記載の方法であって、
フライアッシュを流動化させるために使用される空気を加熱ことにより、フラ
イアッシュの相対湿度が低下される、方法。

12.

フライアッシュから炭素粒子を分離する装置であって、
フライアッシュを受け取り且つ炭素粒子とフライアッシュとを摩擦電気によっ
て帯電させ、帯電した炭素粒子を帯電したフライアッシュから静電気によって分
離する摩擦電気式分離装置を含み、
摩擦電気式分離装置に先だってフライアッシュを受け取り、フライアッシュか

らの炭素粒子の静電分離のために、フライアッシュの相対湿度が、約5%乃至30%の理想的な相対湿度範囲となるように調整するフライアッシュ処理手段を更に含む、ことを特徴とする装置。

13.

請求項12に記載の装置であって、
前記フライアッシュの処理手段が、遠方の収集容器から摩擦電気式分離装置へとフライアッシュを搬送するために使用される搬送空気に水を添加する手段を備える、装置。

14.

請求項12に記載の装置であって、
フライアッシュの処理手段が、摩擦電気式分離装置の供給箇所にてフライアッシュに水を添加する手段を備える、装置。

15.

請求項12に記載の装置であって、
前記フライアッシュの処理手段が、摩擦電気式分離装置に供給するアッシュ貯蔵容器内にてフライアッシュに対し水を添加する手段を備える、装置。

16.

請求項12に記載の装置であって、
フライアッシュを遠方の収集容器から摩擦電気式分離装置へと搬送するために搬送空気が使用され、前記フライアッシュの処理手段が、搬送空気をフライアッシュと組み合わせる前に搬送空気を加熱するヒータを備える、装置。

17.

請求項16に記載の装置であって、
遠方の収集容器から摩擦電気式分離装置までフライアッシュを搬送する空気搬送装置が、該空気搬送装置内の搬送空気の熱損失を低減し得るように絶縁されている、装置。

18.

請求項17に記載の装置であって、
摩擦電気式分離装置に供給する出口ポートを有する空気搬送装置の一端にアッ

シュ貯蔵容器を更に備える、装置。

19.

請求項12に記載の装置であって、

フライアッシュの処理手段が、フライアッシュを流動化するために使用される空気を、フライアッシュと組み合わせる前に加熱するヒータを備える、装置。

20.

請求項12に記載の装置であって、

前記フライアッシュの処理手段が、遠方の収集容器から摩擦電気式分離装置までフライアッシュを搬送するのに使用される搬送空気を、フライアッシュと組み合わせる前に除湿する装置を備える、装置。

21.

発電に使用される熱を発生させるべく石炭を燃焼するボイラーであって、ガスの形態にてボイラーから出る不燃性材料を発生させるボイラーと、

ボイラーに接続され且つボイラーから出るガスを受け取り、ガス内に含まれるアッシュを集めるアッシュ分離装置と、

アッシュ分離装置に接続され且つ集めたアッシュを受け取り、該集めたアッシュを遠方の貯蔵容器まで搬送するフライアッシュ搬送装置と、

遠方の貯蔵容器からフライアッシュを受け取り、フライアッシュ内の炭素粒子及びフライアッシュを摩擦電気により帯電させ、帯電した炭素粒子が帯電したフライアッシュから静電気により分離し得るようにする、摩擦電気による向流ベルト式分離装置と、を備える公共的発電プラント装置であって、

当該装置は、摩擦電気式分離装置に先だって遠方の貯蔵容器からフライアッシュを受け取り、フライアッシュからの炭素粒子の静電分離のために、フライアッシュの相対湿度が、約5%乃至30%の理想的な相対湿度範囲となるように調整するフライアッシュ処理手段を更に含む、ことを特徴とする装置。』